

カンファレンスに患者や家族が参加することに賛成！！

18S1004 看護学（在宅看護学） 秋間悦子

ゆき様

今回、講義のなかで印象的だったことは、病院で行われている「インフォームドコンセント」が、手術や検査をするための同意書取得の場になってしまっていること。つまりは、病院が病院を守るための場（時間）になってしまっていること。そう、感じました。

医療安全とは異なりますが、私は病院で感染管理を担っています。患者さんから薬剤耐性菌（MRSA や多剤耐性緑膿菌など）が検出された際、医師に患者や家族に検出されたこと、また、病院での感染対策について協力してもらう内容について説明してもらいたいと依頼することがあります。

ところが、医師のなかには、「なぜ、患者に説明しなくてはいけないのか」「患者が不安になるから説明しない」と言われる人がいます。そもそも検査をしたのにも関わらずその結果を患者に説明しないことはあり得ない、患者に不安を与えないような説明をすればいいのではといつも思います。

私は、医師からきちんと説明してもらうようにしていますが、医師を説得させることにかかなりの時間を要するのが現状です。そして、患者の情報を医療従事者が共有出来ていないことは、患者にとって不利益なことだと思います。看護師間、看護師と医師、理学療法士、薬剤師など。医療従事者はチームで患者のことを見ていかなければいけないのに「個」が強い集団のように思います。もっと、縦に横に柔軟なコミュニケーションが取れると患者にとってよりよい医療となると思います。

カンファレンスに患者や家族が参加することに賛成！！と思いました。

患者が自分自身のことを客観的に知ることが出来るし、医療従事者も、患者の考えをダイレクトに知ることが出来る場になると思います。患者と医療従事者が情報共有し、患者の医療がなされることが重要だと思います。

勝村様

この度は、貴重なご講演ありがとうございました。

私は、カンファレンスに患者や家族が参加することに賛成！！！！と思いました。

患者が自分のことを知る場になりますし、医療従事者もまた患者の考えを確認できる場になるからです。ただ、患者が医療従事者のような医療知識がある人にとっては有意義な場となるような気がしますが、一方でまったく医療のことがわからない人にとっては辛い場になってしまうのではと思いました。

カンファレンスを開催する医療従事者の力量に左右されてしまう気がしますが、医療知識を持たない人がカンファレンスに参加するにあたり、患者さんが「置き去りにならず参加した！」と実感できるカンファレンスとはどのようなことか、勝村さんのお考えを教えてくださいたいと思います。

よろしく願いいたします。